

いわて助産師職能通信

2025 年度もご理解ご協力を ありがとうございました

助産師職能委員会では、妊産婦・家族の安心・安全な妊娠・出産・子育ての実現を、そして助産師の専門性のさらなる発揮を後押しできるよう、委員会活動を行っております。

本号では、2 年間の検討を経て作成した「院内助産ことはじめ」、「いいお産の日」の開催など、今年度の主な活動について紹介します。皆さまの現場でのよりよい助産実践につながれば幸いです。

『ことはじめ』とは
新年に一年の幸いを祈
りつつ最初に行うこと



院内助産は看護管理者、多職種からなる医療従事者のみなさんの理解がなければ運営できません。そこで「ことはじめ」は、助産師にとどまらず、看護管理者、助産師以外の医療従事者のみなさんにも手に取っていただきやすい内容、構成を心がけました。また、第2部の「わたしたちの現在地の確認」では、助産師職能交流会を通じて集めたみなさんの声も反映させました。助産師としての思い、ジレンマに「わたしも同じことを考えていた！」と膝を打った方もいるのではないのでしょうか。「ことはじめ」を通して、岩手県内の助産師の仲間づくり、チームづくりが進んでいくことを期待しております。

さらに、「ことはじめ」には自治体、看護協会からのメッセージも載せております。**自治体、職能団体をはじめ、岩手県の助産師、看護管理者、医療従事者のみなさんが手を取り合って「いわての未来を守る」ために、「ことはじめ」しましょう。**(担当：阿部)

助産師職能交流会を開催しました

岩手県の助産師の意見を踏まえて作成した『いわての未来を守る 院内助産ことはじめ』の活用方法話をしました。

グループワークでは、「岩手県の現状に合っている」「みんなで共通認識を持つために役立つと思う」「助産師だけではなく、他のスタッフも理解しやすい」等の感想をいただきました。特に、「**院内助産の色々なカタチ**」が紹介されていることや院内助産の質を担保するために必要な妊娠期・分娩期・産褥期ごとの「**チェックリスト**」があること等が役立つと意見をいただきました。

みなさまの施設でもぜひ、ご活用ください！

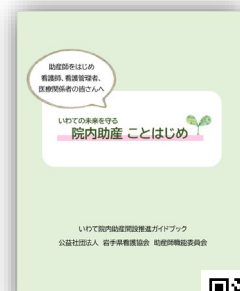
(担当：金谷)

『いわての未来を守る 院内助産ことはじめ』を 作成しました

日本看護協会は 2018 年に、助産ケア提供体制の機能強化を目的として「院内助産・助産師外来ガイドライン 2018」を刊行しました。院内助産・助産師外来の開設を検討している医療機関では運営の参考に、既に運営している医療機関では自己点検に活用できる内容で構成されています。

一方で、**院内助産・助産師外来の重要性を認識していながら、いざ開設するとなると「どこから手をつけたらいいのか」となり、既に運営している場合は「現状の課題をどう解決するか」「他施設はどのような運用をしているのか」となっていたのではないのでしょうか。**そのように考え、悩むみなさんの「道しるべ」となるようなガイドブックを目指し、みなさんの声を集めることからはじめ早 2 年。

このたび「**いわて院内助産開設推進ガイドブック いわての未来を守る 院内助産ことはじめ**」(以下、ことはじめ)の完成に至りました。



Q 院内助産



岩手県看護協会 HP



第 66 回日本母性衛生学会学術集会で発表しました

10月10日（金）・11日（土）の2日間、京王プラザホテルで開催された「第66回日本母性衛生学会学術集会」に参加してきました。若年母への支援についての講演を皮切りに、妊娠、出産、育児のみではなく、セクシュアリティや助産師教育についてなど多種多様な内容となっていました。助産師教育については、分娩件数が減少している中での教員や実習機関の苦悩や工夫など、全国的に深刻な問題となっていることを実感しました。また、県内で実施施設はありませんが、近年増加してきている無痛分娩の現状を知ることができ、身近に感じると共に、需要の高まりを実感しました。今年は口演、ポスター発表合わせて約450題もの一般演題発表があり、**助産師職能委員会からも、「岩手県版院内助産開設推進ガイドブック作成までの取り組み」について発表しました。**

「いわての未来を守る」をテーマに、令和6年度より各支部の助産師職能委員の協力を得ながら取り組んでおり、交流会の様子や、作成したガイドブックのねらいや内容についてなど発表し、ガイドブックの作成だけにとどまらず、活用しながら、今後も院内助産推進のためにも、PDCAサイクルを回していくことを課題としています。**会場からの岩手県助産師職能団体の活躍に対する期待の声が今後の励みとなりました。（担当：伊藤）**



いいお産の日inいわて 2025 を開催しました

11月3日（月）、キオクシア アイーナ 4階県民プラザにて岩手県助産師会と合同で「いいお産の日」イベントを開催しました。**今年度は、「パパのチカラを子育てに」をテーマに、**パパの子育て写真展、赤ちゃんの着替えや抱っこなどのお世話体験、妊婦ジャケット体験などを行いました。来場者は91名で、乳幼児から70代までの幅広い年齢層で、男性の参加は36名でした。助産師、歯科医師、栄養士による相談コーナーでは、妊婦や乳幼児を育てる親からの相談が多く聞かれていました。また、助産師学生による紙芝居「生まれてきてくれてありがとう」も大盛況で、子どもも大人も見入っていました。赤ちゃん人形を「重い」「かわいい」と言いながら大事そうにしっかり抱っこするなど、胎児への愛着がみられ、熱心に体験する様子がみられました。

参加者からは、「父親が育児を行う姿をイメージするのに役立った」「体験ができてよかった」「話が聞けてよかった」などの感想をいただき、好評でした。（担当：種子）



アドバンス助産師認証者数の推移

| 年 | 岩手県（ ）内は再掲 | 全 国 |
|------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 2015 | 55 名 | 5,563 名 |
| 2016 | 132 名（新規 77 名） | 11,008 名（新規 5,445 名） |
| 2017 | 132 名（新規申請中止） | 11,008 名（新規申請中止） |
| 2018 | 136 名（新規 4 名） | 12,000 名（新規 992 名） |
| 2019 | 153 名（新規 17 名） | 12,739 名（新規 739 名） |
| 2020 | 136 名（新規 6 名 更新 32 名） | 10,569 名（新規 727 名 更新 2,666 名） |
| 2021 | 118 名（新規 9 名 更新 48 名 再認証 2 名） | 8,327 名（新規 707 名 更新 2,459 名 再認証 37 名） |
| 2022 | 134 名（新規 11 名 更新 4 名 再認証 1 名） | 9,032 名（新規 471 名 更新 178 名 再認証 56 名） |
| 2023 | 140 名（新規 7 名 更新 3 名） | 8,951 名（新規 438 名 更新 422 名 再認証 51 名） |
| 2024 | 140 名（新規 4 名 更新 13 名） | 9,060 名（新規 461 名 更新 328 名 再認証 59 名） |
| 2025 | 126 名（新規 3 名 更新 20 名 再認証 1 名） | 7,628 名（新規 412 名 更新 1,493 名 再認証 56 名） |

選択研修

2026 年度
岩手県看護協会での
研修会を
ご活用ください！

* 日本助産評価機構 HP をもとに作成。認証者数は合格発表時のもの。

* 認証後の転入出や退職等で変化しているものは対応していない。

（担当：蛸崎）

発行：岩手県看護協会 助産師職能委員会

委員長 蛸崎奈津子

副委員長 阿部 志保

委員 種子 はるみ / 伊藤 洋子

金谷 肇子 / 田中 美礼

全体レイアウト（担当：田中）